

日本語の再発見

中国語の欠陥

このやうに、日本語と中国語とを比較してみる時、中国語の特色がはっきり解るのであるが、その特色は今は“長所”といふよりも“欠陥”といふ面が強い。

中国語には、日本語に無い多くの音韻を有つてゐて、その一つ一つが総て明瞭な意味を備へてゐるので、多彩で絢爛である。だから、聴いてゐて文学的な味はひが深く、且、音楽的美しさがある。

しかし、そのやうな意味のある音声か、続いて並べられるといふことになれば、日本語のやうな、言葉と言葉との関係を明らかにするテニヲハや活用変化がない中国語では、正確な思想の伝達が非常に難しくなる。日常よく使はれる言葉だったら解るだらうが、学問的な討論などになると非常に理解し難いだらうと思ふ。

既に述べたやうに、人は言葉で物事を観察したり思考する。だから、中国語で物事を観察し、思考する中国人は文学や思想の面では多彩絢爛な言葉で非常に結構だと思ふが、現代の精密な論理を必要とする科学の研究には向いてゐないやうに思はれる。

しかし、言葉の性質は、変へようとして変へられるものではなく、また、変へるべきものではないと思ふから、日本語や英語などを通して研究

すればよいと私は思つてゐる。

中国語の特色は、孔子や老子を始め、諸子百家のやうな、大思想家を生むのに適してゐるものだと思ふ。さういふ面でその特色が生かされれば、科学の研究に適しないといふ欠陥など、問題にすることは無いのではないかと思ふ。